

5 日程

8：50～ 9：10	受付	玄関
9：15～ 9：35	全体会Ⅰ	体育館
9：40～10：30 〈小学部は10：25まで〉	公開授業①	各教室
10：40～11：30 〈小学部は11：25まで〉	公開授業②	各教室
11：40～12：00	全体会Ⅱ	体育館
12：00～13：30 〈ポスターは12：40開始〉	昼食・休憩 ポスター発表	体育館
13：30～14：55	分科会	小学部：プレイルーム 中学部：ランチルーム 高等部A・Bグループ：美術室 高等部Cグループ：会議室
15：10～16：40	講演会	体育館
16：40	閉会	

6 講演

「知的障害のある児童生徒の教科学習」

川間 健之介 氏（筑波大学教授）

～概要～

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年度4月告示）において最も充実したことは、知的障害のある児童生徒のための各教科（以下、知的障害教科）の目標と内容です。これによって、各教科の授業、教科等を合わせた授業づくりが大きく改善されることが期待できます。また、知的障害教科の評価は小学校、中学校と同様に3観点による評価となることも授業改善につながることを考えます。

7 申込方法

参加申込は、郵便、FAX またはメールでお願いします。

申込用紙は本校ホームページ（<http://www.pal.wakayama-u.ac.jp>）よりダウンロードしてください。

申込期日 平成31年1月18日（金）

問い合わせ及び申込先

和歌山大学教育学部附属特別支援学校 研究発表会事務局

〒641-0031 和歌山県和歌山市西小二里2丁目5番18号

TEL 073-444-1080 FAX 073-447-2597

wft-kenkyu@center.wakayama-u.ac.jp

8 その他

- （1）資料代 当日、受付にて1,000円をお支払いください。
- （2）昼食 弁当をご希望の方は、申込用紙にて事前にお申し込みください。
弁当代は弁当と引き換えに1,000円をお支払いください。
- （3）アクセス 本校へはホームページの地図、案内をご覧頂き、お越してください。
駐車スペースが少ないため、公共交通機関の利用にご協力ください。

※この案内は、本校高等部印刷班の生徒が印刷しました。

和歌山大学教育学部附属特別支援学校

平成30年度研究発表会（ご案内）

知的障害のある子どもの学び続ける力を育てる教科学習
—伝え合い学び合いを大切にした授業づくりと子どもの変容—

ごあいさつ

初霜の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本校では、4年前に、子どもたちが将来、社会の一員として自立し、その役割と責任を果たすとともに、自らの人生を豊かに歩み続けていくことのできる人間へと成長してくれることを願い、知的障害のある児童生徒の教科学習の実践研究に着手しました。一昨年度は、その一端を国語科ならびに算数・数学科を中心に公開させていただきました。

われわれ附属学校の教育研究は、教育目標（育てようとする児童生徒像）を実現するところにその性格を有する実践の学です。これより、日々の教科学習が「独りよがり」、「気ままな子育てごっこ」に陥らないためには、学習の成果を確かめていく必要があります。そこで一昨年度から研究テーマを「知的障害のある子どもの学び続ける力を育てる教科学習—伝え合い学び合いを大切にした授業づくりと子どもの変容—」として、新たな歩みを始めました。この2年間、このテーマの下で児童生徒の変容を捉えるとともに、反省的な思考で授業改善を積み重ねてまいりましたが、その歩みは遅々としたもので、悩むことの方が多い毎日です。それだけに、ぜひとも皆様のご参会を賜り、忌憚のないご意見をいただきたく、ここにご案内申し上げる次第です。

ご多用の折とは存じますが、多くの皆様のご来校を心よりお待ちしております。

和歌山大学教育学部附属特別支援学校長 林 修

開催要項

- 1 主催 和歌山大学教育学部附属特別支援学校
- 2 後援 和歌山県教育委員会 和歌山市教育委員会
和歌山県特別支援学級設置校長会
- 3 期日 平成31年1月26日（土）
- 4 会場 和歌山大学教育学部附属特別支援学校
〒641-0031 和歌山県和歌山市西小二里2丁目5番18号
TEL 073-444-1080 FAX 073-447-2597
<http://www.pal.wakayama-u.ac.jp>

和歌山大学教育学部附属特別支援学校 平成30年度研究発表会

平成31年1月26日（土）

知的障害のある子どもの学び続ける力を育てる教科学習 —伝え合い学び合いを大切にした授業づくりと子どもの変容—

分科会 ①小学部

小学部では、児童が興味関心をもって、主体的に学習を積み重ねることが、学び続ける力を育む上で大切であると考えている。子どもたちが、やってみたいと思えるように教材を工夫することや体験的な学習を通して主体的に教材に関わることが重要であると考え、実践を重ねてきた。分科会では当日の3つの公開授業について、「教材の工夫」と「体験的な学習」に視点を置いて授業検討を行う。

提案者 小林史
司会者 川嶋護
研究協力者 江田裕介（和歌山大学教授）・竹澤大史（和歌山大学講師）
助言者 松下香好（県学校教育局県立学校教育課特別支援教育室主任指導主事）

②中学部

知的障害のある子どもたちの学び続ける力を育むためには、教科の系統性を視野に入れた授業を積み重ねていくことが大切である。中学部では、系統的に学習内容が示されている通常教育の視点を取り入れて教科学習に取り組む中で、授業づくりのポイントに着目しながら授業検討を繰り返した。分科会では、特別支援学校における国語科、数学科の教科学習について、公開する3授業の協議も交えながら考えていきたい。

提案者 谷口紗由美
司会者 西本一史
研究協力者 古井克憲（和歌山大学准教授）
助言者 木下真太郎（県学校教育局県立学校教育課特別支援教育室指導主事）
和田伸敏（県教育センター学びの丘学校支援課指導主事）

③高等部 A・B グループ

本グループは、ほとんどの生徒が高等部から本校に入学してきており、知的障害の程度は軽度である。Aグループの生徒は、自閉症スペクトラムの生徒が多く、興味に偏りがある。また、具体的な体験を通すことで前向きに取り組む姿がみられる。Bグループの生徒は、友達と関わることで、自分の考えの幅を広げていくことができる。そこで、各グループにおける授業づくりポイントの特色である「学習意欲を高める支援」（Aグループ）、「教材の工夫」（Bグループ）、「発表しやすい雰囲気」（A・Bグループ共通）に視点を置いて、成果、課題、改善策、新たな提案などについて協議し、その成果を共有したいと考えている。

提案者 辻岡麻起子
司会者 三木理恵子
研究協力者 武田鉄郎（和歌山大学教授）
助言者 辻岡直樹（県教育センター学びの丘学校支援課課長）

④高等部 C グループ

本グループの生徒は、ほぼ全員が小学部・中学部からの内部進学者である。C1グループの生徒は、疑問に思ったことを自分の経験と照らし合わせ、答えを探し出そうとする傾向がある。一方、C2グループでは学習に意欲を見せるが、理解度の差が大きく開いている。そこで、本グループにおける授業づくりポイントの特色といえる「発問の工夫」（C1グループ）、「個別の支援」（C2グループ）に視点を置いて、成果、課題、改善策、新たな提案などについて協議し、その成果を共有したいと考えている。

提案者 久保田真由子
司会者 谷重男
研究協力者 山崎由可里（和歌山大学教授）
助言者 小山武宏（県学校教育局県立学校教育課特別支援教育室指導主事）

公開授業① 9：40～10：30（小学部は10：25まで）

小学部

低学年 ことば・かず（国語）「おはなしあそび『3びきのこぶた』」
授業者：渡邊真由美 小林史

中学部

2グループ 基礎学習（数学）「図形の学習～三角形の内角の和について～」
授業者：小栗英男 西本一史
3グループ 基礎学習（数学）「お金の学習～お釣りを少なくする工夫をしよう～」
授業者：宮崎美幸 谷口紗由美

高等部

Bグループ スタディ（数学）「拡大と縮小」
授業者：入學遼治 北岡大輔
C2グループ スタディ（国語）「お話づくり part3」
授業者：中村珠歌 谷重男 久保田真由子

公開授業② 10：40～11：30（小学部は11：25まで）

小学部

中高学年1グループ ことば・かず（国語）「ペープサートでげきあそび」
授業者：清水祐野 川嶋護
中高学年2グループ ことば・かず（算数）「場所とりゲームをしよう！」
授業者：宮井仁美 井上典子

中学部

1グループ 基礎学習（国語）『『ごんぎつね』～ごんと兵十の気持ちを考えよう～』
授業者：松下敦也 小栗英男

高等部

Aグループ スタディ（理科）「火山を噴火させよう！」
授業者：久保田竜生 久保田真由子
C1グループ スタディ（社会）「税金について考えよう」
授業者：井上泰馬 谷重男 三木理恵子

ポスター発表

本校の取り組みや県内の特別支援学校の指導実践、教材・教具、研究や研修発表をポスター形式にて報告します。特別支援教育に関わる多方面のみなさまと、情報交換ができる場になればと考えております。

時 間：12：40～13：20
場 所：体育館

和歌山県内の特別支援学校の取り組みも
ポスター発表いたします

講演会

「知的障害のある児童生徒の教科学習」



講師 川間 健之介 氏
（筑波大学教授）
時間：15：10～16：40